令和２年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症
対策支援プロジェクト研究報告書

企画題目	コロナ感染者に対する偏見と蔑視に対する改善策と社会啓蒙
研究者所属・氏名	研究代表者：近畿大学病院　遺伝子診療部　西郷　和真 共同研究者：近畿大学　理工学部　川下　理日人

1．研究、開発・改良、提案目的･内容

新型コロナウィルスに感染した人や、感染リスクの高い人に対する偏見と蔑視が取りざたされている。これらの視点に注目して、偏見や蔑視の実体について、アンケート調査を行い、その結果から導き出された内容を検討し、その軽減に努める方策を検討する。その結果を世間一般に周知することで、新型コロナウィルス感染症に対する、偏見や蔑視を軽減できる可能性を模索する。

2．研究、開発・改良、提案経過及び成果

新型コロナウィルスに感染した人や、感染リスクの高い人に対する偏見と蔑視が取りざたされている。このような感染症における偏見と蔑視は、新型コロナウィルス感染症にだけに限った話ではない。いままでにも中世ヨーロッパにおけるペスト感染症や、アメリカによるHIV（エイズ感染症）、日本では、ハンセン病などが起こって来た歴史があり、HIV などは、その感染形式によるためと考えられる差別が、現在も進行中である。

だれでも、この新型コロナウィルス感染症に罹患する可能性があり、その状況は大きく改善していないばかりか、現在も東京都では、緊急事態宣言中である。今後は、ワクチン接種が広がり、多くの国民がワクチン接種を受けることで、社会のコロナ感染症に対する受け止め方も変わっていくことが、予想される。ワクチンを何らかの身体的理由や社会的理由で受けることができない人がコロナ感染症になった場合に、社会的な偏見が起きないか危惧する所も、懸念されている。

本研究では、上記に記したようなコロナの意識調査を理解し検討できる内容のアンケートを大学生、幼稚園関係者、医療関係者に実施中である。これらのアンケートデータを収集し、その内容を検討中である。

また、速報性を重視し、レビュー総説として、第１報として以下に示した、日本遺伝カウンセリング学会誌における「コロナ下の近畿大学病院遺伝子診療部における状況」として発表した。

3．本研究と関連した今後の研究、開発・改良、提案計画

今後は、遺伝子診療部で診療を行っている遺伝性疾患患者において、存在する偏見と蔑視、今回のコロナ感染症患者に対する違いや対比を行う。そして、コロナ感染症と遺伝性疾患における問題点を見出し，両者の偏見や蔑視の程度を軽減できる解決法へと結びつける研究を検討している。

4．研究成果の発表等

発　表　機　関　名	種類（著書・雑誌・口頭）	発表年月日（予定を含む）
遺伝カウンセリング学会	学会雑誌	41巻4号P284　2020年12月

5．開発・改良、提案課題の成果発表等

該当せず。